

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に、文部科学省が実施しています。
※この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部であり、学力や学習状況、学校の教育状況などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査

☆成果

国語では、ほとんど全ての問題で全国平均を上回りました。特に、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていました。

算数では、ほとんどの問題で全国平均を上回りました。特に、数量の大きさや図形などの求め方を、言葉を用いて説明する力が向上しています。

理科では、ほとんどの問題で全国平均を上回りました。特に、電流や回路についての基礎的な知識がよく身に付いています。記述式の問題にも意欲的に取り組んでいます。

☆課題

国語では、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を複数の資料から読み取って自分の考えを述べる問題において課題が見られました。また、文脈に適した漢字を書く問題においてやや課題が見られました。

算数では、日常生活と関連した文章から問題の意図を読み解き、答えを導き出す問題において課題が見られました。

理科では、顕微鏡の操作方法や、金属の性質についての理解に課題が見られました。実験結果などから新たな問題を見いだしたり、日常生活と結び付けたりする力に課題が見られます。

☆今後の授業改善に向けて

目的に応じて、情報を選択し理由とともに伝え合う時間を設定し、実践していきます。また、同音異義の漢字について、表す意味や使われる文脈などに着目した学習を工夫し、日常生活で漢字を活用できるようにします。

体験を通じた学習を十分に行い、日常生活と結び付けて考えることができるように指導していきます。また、意見を説明したり解決方法を話し合ったりする活動をさらに充実させます。

物の性質を実験などを通して、体験的に学習できる時間の充実を図ります。実験の目的、実験方法、考察を明確にし、実験方法についても考える時間をとって、科学的なものの見方・考え方を育てていく指導を工夫していきます。